

飼いネコが水俣病に

県が地元民に警告

水俣市大字百間の漁師の家で飼っていたネコが水俣病と診断され、県衛生部では「水俣病の危険はまだなくなっていない」と十六日水俣保健所を通じて、地元市民や漁協などに水俣湾の魚貝類をとらないよう改めて警告した。

このネコは熊大第一内科で水俣病と診断されたもので、漁師が昨年暮れから百間港の五百坪ぐらゐ沖でとっているタチウオの内臓を食っていたといわれる。

水俣病患者は二十八年暮れから昨年十一月まで八十七人が発生、うち三十四人が死亡しているが、これまでの例では、まずネコが発病、そのあと人間が被患することが多く、また最近危険地帯とみられている水俣湾や水俣川下流で魚貝類をとる人があり、県衛生部でも事態を心配して再警告したものの。